1月のお天気

冬型の気圧配置はくずれ易く本州南岸沿いに低気圧が東進する傾向。このため気温は高目に経過し、上旬中頃から月末近くに寒波が吹きだし平年並の降雪がありましょう。平均気温はやや高く降水量は平年並。また日照はやや多い見込みです

No. ６８
発　行
富山県　入善町役場
〔TEL 入善301番代表〕
編集発行責任者
寺崎 清作
印刷所　池原印刷所
定価１部５.円

広報にゅうぜん

1961年　1月10日　発行　昭和32年５月22日第三種郵便物認可

町のうごき

総数　31,277人
男　15,066人
女　16,211人
世帯数　6,330世帯
(12月1日現在)

広報ごよみ

1日(日)　元日、初もうで
4日(水)　ご用始め
6日(金)　消防出初式
10日(火)　大漁祈願祭
15日(日)　成人の日
年賀はがき有効期限
24～30日　学校給食週間
26日(木)　文化財防火デー

仕事仕事の多忙な毎日。一日子供の仲間入りをして童心にむくいました。

先哲の言葉に「習う人は学ぶ心、学ぶ心は自分を破って教えを容れる心だ」とあります。この無辺の境地こそ子供の尊い無心さです。子供は宝、もっともっと大事にしたいものです

明るい楽しい町づくりを念願

町長新年のあいさつ

昭和三十六年の新春を迎え、町民の皆さんとともに心からお祝い申し上げます。昨年は殊のほかご援助ご指導をいただき厚く感謝申し上げます。なお、こん年も相変らずよろしくお願いします。今年も昨年に引続き七年目の大豊作を期待し、一般業者にあつても世界の高原景気とあいまつて順調な所得の延びを願つてやみません。

昭和三十六年は、明るい楽しい、しかも進歩的な町政を行いたいと思っております。

先ず第一に、健全財政をモットーにして放慢政策を堅く慎しむ考えであります

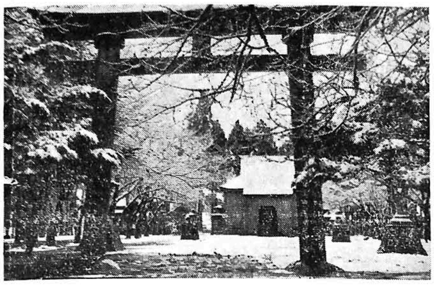
土木事業としては、道路橋梁その他の新設事業は極力やめて、もっぱら修理補修に重点を置きます。

教育面は、学校教育と社会教育とがともに平行する伸展を望み、明るい社会の育成に努めます。また、中学校生徒数の自然増の対策としては、老朽危険校舎であります入善中学校の改築に全力を注ぎ、ぜひ実行したいと考えております。

福祉行政には、とくに関心をもってあたり、ことに母子健康センター、保育所母子寮および国保の完全運営に十分心がけたく思っております。

なお、皆さまの念願にもなっております工場誘致については、皆さまとともに意欲的に力を傾注して曙光を見だすつもりであります

観光では、園家山および舟見山の施設を逐次整備して住民の憩いの場所とすることは勿論でありますが、広く県下全般に紹介宣伝して世に送り出したく考えております。



[illegible]　神　苑　(入善神社)

年頭のあいさつ

町議会議長
大田 元長

新年おめでとうございます。

昭和三十六年の輝かしい希望に満ちた新春を迎え、皆さまとともに、お祝いいたします。

昨年一か年は、わが入善町の飛躍的発展の基礎作りの年でありました。とくに西入善駅の開駅は、近い将来の町産業構造を大きく左右することを約束づけられ大巾の経済成長が期待できることは、皆さまとともにこの上もなく喜ばしいことであります。

今後、町の発展策にどうあるべきか、今更述べるまでもありませんが、ただ地方議会の衡にあたるものの心構えとしては、地方自治の円滑なる躍進のためにたくましい意欲と叡智とが要請されるのであります。ために、私たちは、いつも住民各位と直結し、時代の推移に即応した自治体の在り方を正しく洞察して、皆さま方の気持を十分に議会に反映させ、住民の福祉増進のために精進することを痛感しているものであります。

そして、その貴重な努力は、今後においてこそ最も要請されるものであります。

以上の観点から今後一層私ども議会議員をご指導ご鞭撻くださいますよう切望してやみません。

★ 1月の歴史 ★

1　太陽歴の実施（明６)。満年令の実施（昭24）
5　日米和親条約の本書批准交換の完了（安政2。1855）
6　良寛死す（75才1831）越後出雲崎生れ歌人・書家・曹洞宗僧
10　大隈重信死す（1922）政治家
仁科芳雄死す（昭26）物理学者
12　NHK はじめて大相撲の中継放送を行なう（昭3）
13　幕府の遣米使節、咸臨丸で品川を出帆（安政7・1860）
第１回国勢調査の結果発表（大10）内地人口55.961.140人
14　高島秋帆死す（68才1866）長崎の人、砲術家、和蘭人に学ぶ
16　国内の長距離電話電信の開始（明33．1900）
18　富山に米騒動起る（明23）
牧野富太郎死（昭32）植物学者
22　東京電灯会社、鹿鳴舘にはじめて営業用電灯を点火（明20）
24　蕉村死（68才1763）俳諧中祖
27　日の丸を国旗と決定（明3）

1月は町県民税4期の納期

ちりも つもれば

婦人会の貯蓄熱

話はちよっと古くなりますが有史以来の大豊作に恵まれた昭和三十年の秋、青木婦人会に、主婦の生活と緊密なつながりのある台所の改善をしようという気運がおこりました。

そこで、先進地を視察の上農協の全面的協力を得てカマド、湯殿の建設費にあてるため月掛貯金を始めました。

カマド貯金は毎月二五〇円、湯殿貯金は月々七五〇円掛けで二か年の積立てであります。幸い農協の厚意あるはからいで材料、職人の世話の一切を農協が引き受けてくれたので、各家庭ではいつでも都合のよい時に、しかも好みに応じた形のものを作ってもらえました。

青木婦人会では、この成功に益々貯蓄熱をあおられ現在六二〇万円の貯蓄高を有し婦人会員一人当たりの貯蓄額でも県下で群を抜いています。今後は、タメルための貯金でなく、豊かなくらしの設計を実現させるための貯蓄の方が、励みがあってよいのでないでしょうか。

納税は日掛け月掛け心掛け

製造業の国勢調査

工業統計調査の実施

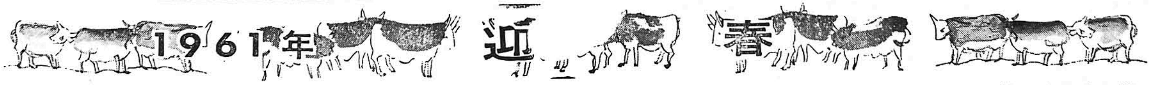
通商産業省では、12月31日現在で工業統計調査を行ないます。

この工業統計調査とは、小さな町工場から大工場までの製造業に属するすべての事業所を調査するものでいわゆる製造業の国勢調査であります。

調査の目的は、各事業所の従業者数や製品の生産、加工に使用された原材料や電力の使用量によって、どれだけの成果があがったかを調査して、わが国の製造業の実態を構造的には握するとともに、生産活動の基本資料になります。

なお、この調査は、県知事の任命する次の調査員によって行なわれます。

調査員　入善＝米沢俊男　赤川秀夫、青木上原＝広川恭毅、飯野＝村田清松、新屋小摺戸＝米山六博、椚山横山＝大田梶松、舟見野中＝西尾信孝（以上7名）



町長	米沢甚吾
助役	清田清一
収入役	杉原礼次郎
総務課長	寺崎清作
税務課長	上田秀雄
民生課長	本田清治
産業課長	竹島米吉
建設課長	西村常作
議会議長	大田元長
同副議長	笹原竹松
議会議員	松田栄松
同	上島正雄
同	松本市郎
同	佐藤光照
同	小堀吉郎
同	柏原三郎
同	伊林順平
同	松原栄蔵
同	岩田磯吉
同	杉原文次郎
同	岩場正三
同	米沢政虎
同	西島三郎
同	吉沢久雄
同	森田清作
同	高田栄松
同	細田睦夫
同	稲村繁
議会議員	柚木春雄
同	嶋田久之
同	亀田盛開
同	小森幸男
同	西尾三郎
同	三賀しさい
同	野島正一
議会事務局長	宮腰由則
教育委員長	谷雪枝
教育委員 教育長	広野清秀
教育委員	滝本菊平
同	新田義政
同	泉俊一
教育次長	竹内愼一郎
区長連絡協議会長・飯野校下区長会長	細田清之助
区長連副会長 入善校下会長	上野幸一
上原校下会長	柏原与次郎
青木校下会長	杉沢八郎
小摺戸校下会長	福沢忠命
新屋校下会長	水野健造
椚山校下会長	杉田啓三
横山校下会長	亀田定次郎
舟見校下会長	内島金三郎
野中校下会長	橋場秋義

カットは脇坂憲治氏の作品

自治体の本義を堅持して

西入善駅の開業など実現

34年度決算

34年度は当初予算138.428千円に43.187千円を追加し、新町建設事業費の繰越額1.347千円を含む総額183.016千円の予算に対し、歳入は184.079千円（100.5%）歳出は181.082千円（98.9%）差引2.996千円を繰越して決算を終了しました。なお野中小学校校舎講堂の新築、西入善駅の開設、地鉄バス営業所の設置など重要課題が解決された年でもあります

主なる施策の効果

消防　予防消防に重点をおき、小型動力ポンプ2台購入し、椚山青木分団に配置。また、ニッサン消防自動車を新調。

土木　新設改良には五、五五二千円で西入善駅線、黒東中学校線、板屋川原線その他8ヵ所を新設改良。次に、県道、国道の一部舗装をなし、バス路線の拡充整備に待避所を新設。また、都市街路上町君島線の舗装は、本年度から3ヵ年計画で着工。

教育

＜学校関係＞野小新築は、4教室と講堂一〇九、七五坪を建設して分散教育を正常化。飯野中学特別教室八七坪を増築し、教室不足を解消。また入善中学に工作室（25坪）を増築して、産業教育の振興を図りました

＜公民館活動＞分館80は、文化ならびに生活向上の発展に寄与。田中分館は33、34年度と県の指定を受け、また八幡分館は県のモデル分館となっています。

＜青年学級活動＞全地区に開設され、とくに新屋青年学級は県から表彰されています。

＜その他社会体育関係＞

全校下に体育協会が結成され、体育向上に一段と飛躍をみました。

＜図書館＞　蔵書八〇六冊を購入、総数一〇、二二五冊で、年間延三八、四一七人の利用がありました。

社会及び労働施設　8ヵ所の常設保育所に六四〇人の児童を収容し、年間二八八日の保育日数で乳幼児の保育に当り、季節保育所は四二ヵ所に九〇日間開設。

＜社会福祉事業＞

民生児童委員の協力を得て、生活困窮者の援護、身体障害者の更生施設の利用敬老思想の普及、母子世帯、戦歿者遺族などの福祉増進に努めました。

＜国民年金事務＞　福祉年金は35年3月3日第1回の支給が行なわれました。老令（八一〇人）障害（四七人）母子（八三人）

また、36年度から開始されるきよ出制国民年金のPRと世帯調査を実施。

＜失業対策事業＞延人員
町道補修……四、四〇五人
町道新設……三、三六二人
町道改良……八、七七四人
保健衛生事業一、六六六人

保健衛生

＜結核予防＞　一般の関心が高く、レントゲン受診率は94%の成果を収めました

＜環境衛生事業＞　蚊、はえの発生源除去と、薬剤防除を重点的に実施しました

＜母子衛生事業＞　母子健康センターは、助産及び保健指導に予期以上の利用度を示し、母体の保護、乳児死亡の低下に大きな効果をもたらしました。入院者は三五六名。乳児死亡率は前年度より7%低下。

産業経済

＜農業施設＞　農業技術の改良普及に重点をおき、4農協に営農指導員を設置して技術向上と営農改善をはかり、また、米麦採種多収穫研究活動、冷水かん漑防止施設などの水稲増収を図り、土地生産施設の整備の一環として畦畔コンクリート化を促進。

・そ菜園芸では、黒部西瓜の系統固定試験、結球白菜圃場品評会、輸出球根隔離圃場、サフラン栽培試験、葉タバコ跡作展示、球根集荷場施設拡充などの振興。

・町総各開発計画に基くB地域、C地域は、新農山漁村振興特別助成地域として本年度は二、一八五千円の国庫補助をうけて、五、七八九千円の事業を行ないました

・病害虫防除は、予察駆除防除対策につとめ、ミスト機7台、動力撒粉機25台・背負手動撒粉機20台を購入

・畜産振興策は、酪農に主眼をおき飼料圃、レンゲ刈取機を整備し、登録牛2頭を購入貸付。また、舟見山に和牛の放牧によって素牛の育成を図りました。

・林業は、奥地町有地の視察調査を行ない、官行造林指定の準備をいたしました

＜耕地事業＞　土地改良事業振進のため、雪積寒冷単作地帯振興対策事業に五、〇八二千円を助成。

水産業

・沿岸漁業振興策としては船揚斜路一基、コンクリート製標識灯（4基）の設置

・県外出漁としては、漁船幹部養成講習会を開設。

また、主要河川に虹ます、谷江塘に鯉種を放流。

商工業

・中小企業対策としては、商工会に六〇〇千円を補助また、県信用保証協会に出資して資金融資の円滑化をはかりました。また、商店街の照明美化を整備。

・工場誘致のため県の適地検分を、また通産省の地下伏流水の水質検査をうけました。工場誘致の栞を整備

・舟見山の観光資源を調査

下山八幡社境内の整美、青木六本松の復旧など実施。

34年度歳入歳出決算（総括）

歳　入

款	予算現額（千円）	収入済額（千円）
1 町税	100,002	101,107
2 地方交付税	23.030	23,249
3 公営企業及財産収入	640	936
4 分担金及び負担金	5.311	5,373
5 使用料及び手数料	4,010	3,929
6 国庫支出金	16,040	16.043
7 県支出金	6,687	6,877
8 寄附金	3,601	3.500
9 繰越金	7,548	7.548
10 雑収入	2,747	3.113
11 町債	9,900	8.900
12 繰入金	3,500	3,500
歳入合計	183.016	184,079

歳　出

款	予算現額（千円）	決算額（千円）
1 議会費	2,411	2,410
2 役場費	35,528	35.456
3 消防費	9,037	8,965
4 土木費	14,064	13,779
5 教育費	32,064	31.824
6 社会及び労働費	19,817	19,433
7 保健衛生費	4,088	3,954
8 産業経済費	22,936	22,526
9 財産費	1,924	1,922
10 統計調査費	368	367
11 選挙費	618	617
12 公債費	24,471	24.434
13 諸支出金	15,564	15,390
14 予備費	121	—
歳出合計	183,016	181.082

差引残金　2,996,614円（35年度へ繰越）

入善町風土記

……第74回……

黒部川氾濫の歴史

竹内慎一郎

郡史稿に「飯野小学校の調書によれば宝暦年間（二〇五年程前）黒部川が大氾濫し、もと古黒部を流れていたのが今日のように飯野の西を流れるに至った。当時の被害高として次のような記録がある。

東狐村四〇四石（二七町歩）柴垣新三一石（二町歩）袖沢村三一石（全）上飯野新村七五石（五町歩）上飯野村二七一石（一八町歩）本臼森七五石（五町歩）本村一五〇石（一〇町歩）

以上は古来の云い伝えであろうが、川の変遷を知る一資料といえよう。」とある

註1（）内は筆者の推定
2右は明治四〇年頃の調書である

右の記事は越中史料にも収録され、一般に信ぜられているようであるが、川の中に埋没された村名がない。もっと以前に現地方面へ本流が移ったことは本稿六〜九回に発表した多くの古地図や史料で明らかであるが近年発見の黒部川氾濫口〆切工事略地図はこのことをはっきり裏書きしている。

即ち宝暦年間には逆に墓ノ木の中ノ口から古黒部方面へ氾濫し、約三十年後の天明五年この地図を御改作所に届けたときにはまだ〆切工事が完成していない。天明二年（一七八年前）に小摺戸〜若栗新の間を破って入川した二つの氾濫口は小摺戸側は藩費で修築し若栗側は地元負担で請願して何れも完成している。

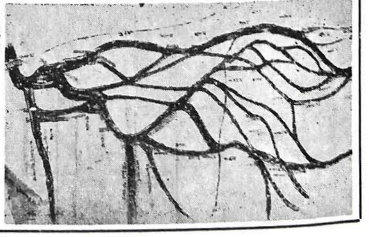
下飯野新〜下飯野間を破って東の方、高瀬の南を流れ二又に分れた入川も〆切工事が完了している。

尚、この地図は、東は小摺戸ー東狐ー下飯野、西は荻生ー沓掛ー生地を結ぶ線の中間、巾一里余りの地帯を網の目の様に川が流れ、その島々に部落があって殆どが堤防がないようにみうけられる。当時の、部落（島集落）の成り立ちを示す貴重な史料で、且つ宝暦の頃には厳として現位置一帯を流れていた事を示すものである。後世のため誤りを残さぬよう重ねて指摘しておきたい。（地図ー三日市嘉二雄氏蔵）

下って文政十一年（一三三年前）下立、浦山、若栗から生地、石田方面に出水し安政三年（一〇五年前）及び同五年に飯野方面に氾濫、当時の十村（トムラ＝大庄屋）野島友之助（現在の寺田町広沢耕一氏附近に居住）の開墾地四百余石（二七町歩）の七、八割を流失したと伝えられる。之等の氾濫から村を守るため黒部川にはじめて堤防を造れと命じたのは佐々成政（天正八年頃ー三八一年前頃）であったといわれているが、もとより一小部分の〆切工事であったにちがいない。

徳川時代には藩の事業として築堤、修理などを行った。当時の工法は石や土砂で築き、大よそ五十間毎に三十間ほど川の中へ突き出した張り出しを作り、その突端に川倉又は蛇かごを入れた。更に要所には「裏堤」といって、前堤のうしろに平行して二番堤防を築いた。根掘り、根固めなどはせず、丸石ではどり、固めとして川倉、蛇かごをおいたようで、甚だ弱いものであったという。（郡史稿）袖沢、東狐、笹原、下飯野に残る堤防がそれではあるまいか。

明治の初年には県費で工事を行ったが、連年の大水害に手におえないので屢々国営工事の請願が行われ、明治二十四年十一月の臨時県会で森山知事が大演説を行って、内務省のデレーキ技師（オランダ人）を招き五、六ケ月間現地調査を行うこと、国営で（約半額県負担）工事を行う事を要請した、と述べている。（県政史2）明治二十九年（六六年前）デレーキの設計した霞堤が完成し、はじめて現状に近い姿となったのである。



第13回成人式

とき　1月15日10時
ところ　中央公民館

11時より成人祭
演劇、コーラス
器楽、舞踊など

成人者名簿は、12月22日現在のものです。（500名）なお調査もれの場合は、ご連絡ください。

成人者の氏名

入善校下＝沢田和子　林朝子　大
角義雄　平柳静子　大角勲　上野
秋男　長川原斉　込尾年子　上田
加次　上田司　松倉美智子　上田
清作　上田節子　寺崎修二　上田
紀久子　五十里英子　浜西勢一
五十里精弌　田中陞義　岸町子
松倉勝　藤沢慶子　泉進一　田中
陽子　竹内双千子　南保美紀子
岡田光子　佐藤進　佐藤妙子　保
要周子　岡田光子　古谷紘子　扇
原紀昭　藤塚隆久　竹内正夫　田
中博明　長島節子　白石敏英　米
沢睦子　水上美樹子　藤巻明子
米沢興野　扇谷紀恵子　米沢史生
島美砂子　福沢ハル　前田紀代美
宝田登美子　横山由紀子　竹内成
子　竹田美邦　堂徳紀久　四十物
寛二　鍋島富美子　石田光一　野
口美和子　堀田津子　久保恒雄
後明英範　寺林一夫　南保光　杉
田照子　中野栄一　江口真男　辻
紀代子　上田京子　竹内秀子　岩
場きぬ子　寺崎敏幸　中村勲　三
日市富子　赤川睦子　高松紀　杉
原篤成　竹内紘子　岩場勝郎　森
田烈嗣　竹内郁男　竹沢宇久　愛
場美代子　竹内秀夫　泉章子　池
原さき　吉島宇太郎　北川久子
五十嵐光男　米沢武　関紀久　北
野久紀　天野毅　田中紀子　田中
豊喜　五十里紘一　五十里紀明
五十里桂　五十里庄吉　五十里清
元　室敏明　室末子　綿利秋　池
原玉江　栗田美智子　五十里光子

上原校下＝板川容　池田光正　板
川勇　板川兼三　森孝昭　松田淑
子　松田義雄　松田成子　籠瀬和
江　草切紀子　宝田秋子　宝田正
義　中瀬倶子　中瀬カノ子　広岡
繁明　山田清　羽場美智子　本多
俊夫　村田敦　藤本静子　村田式
子　村田正誠　目沢政忠　草島孝
夫　草島清久　芦崎順一　石田京
子　金田和夫　金沢春枝　金沢幸
雄　吉島宇一　吉島博司　吉島久
子　泉千鶴子　中沢志郎　広多義
弘　杉原和美　道原ヤス子　柏原
悌一　大野耕治　浜田靖男　浜岸
幸吉

青木校下＝荻田昌夫　宮本澄子
山崎秋夫　森下富久子　山崎由美
子　松本勇夫　畠山多鶴子　森下
清治　松島紀子　笹原敏明　下飯
野紀一郎　松田喜一　松田妙子
吉田進　三室尚武　木本幸子　野
沢喜一　吉田初枝　野沢アツミ
古本春樹　木沢富子　木本武男
木沢進　本田伸良　木本幸光　木
本富子　木沢義豊　杉沢吉博　杉
沢俊子　杉沢幸光　西野典子

飯野校下＝細田康子　名取川清博
川口清　稲場信子　長田武志　鍵
田幸子　鍵田照子　野坂清　広田
助正　高見稔　笹島幸雄　長田隆
夫　小沢和江　飯作重義　浜田良
伸　開坂弘　米島弘道　宮島初子
岩田正道　野坂米作　野坂親敬
野坂三吉　塚田マサ子　野坂宗男
野坂久吉　上島敬子　野坂功　塚
田武　広瀬則昭　伊多慎二　伊野
誠二　井田隆子　井田君子　山田
光夫　井田スミ子　岡島政美　高
田弘　蛇川春夫　井田勇　池原生
悟　大西富士子　浅野利美　高浜
たみ子　高島功　井田善治　田原
敏一　西島豊次　日向博　井田ヒ
デ子　佐原武　高倉節子　浅倉勇
井田靖子　板倉貞吉　井田満彦
西島一雄　広瀬美枝子　広田実
広瀬道之　清水美喜子　竹田吉一
嶋田紀代子　滝本三夫　本田陽子
篇原征夫　林由太郎　永原邦子
桐沢弘　南保賢正　笹島孝夫　元
田克美　竹島昇　上島敬子　上野
正子　上野峯子　臼島政義　上島
泰子　上島恭子　飯田京子　滝本
清美　滝本節子　島先宏充　島先
芳子　矢木三枝子　島先満雄　島
尻邦雄

小摺戸校下＝杉本晃　伊林光義
杉本親応　伊林由美子　小林春技
小路芳雄　大橋秋光　四月朔日民
子　秋元尚英　城崎公恵　長谷川
勝一　松島貞夫　松嶋昭子　森田
伊成　井林ひろ子　高島栄二　若
島勝靖　沢飯君江　松島一義　松
井敏子　若島静子　福沢紀美子
松島義雄

新屋校下＝新田勉　谷田ミサヲ
新田澄子　橋本美和子　小堀人昭
長谷川英二　渡辺一男　早川京子
早川勇　米山みつ子　米山有三
吉野美和子　米山文子　寺崎アキ
島尻栄子　上野重子　熊野真一
稲村孝子　山岸誠　長津孝司　大
久保紀久　上修敏雄　江淵光男
野寺元治　中易保夫　鬼原幸夫
鬼原政樹　上林宏　川内すみ　鬼
原進　長谷邦夫　長谷なつ江　長
谷晴夫　野寺京子　橋本輝政　西
島ミサ子　木村信義　窪田忠男
林栄佐雄　長谷川志津子　藤田笑
子　小林留夫　藤田行宏

椚山校下＝鍋谷稔　青木和枝　松
田留子　松田勝徳　上野晶子　松
田トヨ子　小杉章夫　藤塚俊雄
扇原寛治　吉田明男　中川道弘
青木誠也　中田桃子　長島久男
長島律子　吉田勇　四十物貞親
長島輝子　前田正　富山省三　青
木紀恵子　田又晴明　青木繁

横山校下＝永田栄子　佐藤哲夫
永山幸子　尾山利春　野口敦子
幾田修一　亀田悦子　尾山瑞子
亀田雄一　尾山真之　吉野弘子
永山和紀　佐藤忠紀　辻田義則
板正子　柿山順二　尾山弘松　紺
田静江　浜瀬智鶴子　杉本昭子
立花淑子　杉本雅人　尾山悦子
米沢久子　真岩薫　真岩勝次　岡
本昭正　池原洋子　神子沢紀子
山崎俊夫　山崎勝身　草鹿　草見
広川強士

舟見校下＝高村紀夫　山本良治
若林豊一　兵初雄　小林幸夫　赤
川義明　小森定一　松田重弘　徳
光政夫　石谷幸三　谷武久　樽井
弘和　山崎富雄　舟見富義　舟見
政夫　山本幸子　西尾令子　小池
久美子　小森和子　芹沢光枝　辰
尻とし子　上野ゆり子　舟見千恵
子

野中校下＝長原守一　長原英巨
稲村敏子　水野日登志　稲村弘　舟
本昭吾　舟本繁市　川瀬武紀　窪
野雅之　江畑武次　大面紘基　小
林宏　山本養正　草野美奈子　小
松ます子　金森恵美子　金森京子　百石ケイ
子　百石昌子　坂東須美子　舟本
和子　大道則子　大面靖子　大割
紀子　下山田稔子　山本美津子
山本美穂子

呉羽紡績＝籠瀬スイ　早川菊
枝　鍋島久子　寺林すゑ　上島京
子　比謝フヂ子　杉沢俊子　吉塚
好子　柏原勝江　上原情美　杉原
良美　西川恵子　楠田シヅエ　柏
原真紀子　塚田紀美子　今井奈美
子　五十里昌子　松崎和子　青代
フサエ　滝本美子　金沢紀子　本
田礼子　竹島ますえ　稲場信枝
浜木姫子　松島静枝　亀田紀子
川原映子　川畠はづみ　小堀富子
前田暁美　明宮紘子　広田美葉子
前塚アサ子　柳平恵美子　田中き
よ　舟根槙子　黒部信子　大上戸
光子　徳井興代　松田悦子　五十
嵐紀子　佐藤朋子　五味川ミス子
船屋弘子　松原君子　上島としえ
沼田邦子

ウシ年を…
…迎えて

細田清之助

皆さん！　明けまして　お目出度う御座います。　旧年中の御厚情に対し感謝すると共に、本年も相変らず御交誼の程希い上げます。

さて一九六〇年のネズミ年も、エン／＼と余韻を残して鳴りひびいた除夜の鐘を境として、こゝにお別れした訳です。そのネズミ年に当って県民が一斉に「ネズミ退治」と出たのは、何となく異様な感に打たれぬでもなかった。一人平均年間千円相当の損害を与えている見込というから機械でも薬でも使って、大いに退治すべきでしょう。

然し今、一九六一年のウシ年を迎えて考えて見ると仲々大切なもので、吾々人間生活に直接関係深いものであることは明白なこと、退治どころか大いに飼育を増進すべきでしょう。

ウシについて私の習う点は古歌によまれてある。

「怠らず行かば
　千里のはても見ん
牛の歩みつよし
　遅くとも」

の教です。

コツ／＼一足一足を固め、あせらず慌てずそしてなまけず人生を送りたいものです。物語兎と亀の亀に通ずるものがあります。

人の一生重荷を負うて遠き道を行くが如し…といった徳川家康の訓えにも相似た点を見出して、一層よく味われます。

（入善町区長連絡協議会長）

……農業所得倍増論……

繁栄は協同の力で

所得倍増という言葉がいいはやされ、米作りばかりにかかっておれないという問題をめぐって、農業の共同化ということが、大きく考えられるようになってきました。

何戸かの経営体を共同でやるとか、果樹栽培、ビニールそ菜または家畜を共同飼育するというように農業法人化の問題も相当に進んできています。

しかし、本町のような水稲単作の経営そのものを、いま急に法人化するにはいろいろの困難もあり、その効果についてもまだまだ研究が必要なようです。

家畜やそ菜や果樹やワラ工品という仕事にしても、農業以外のいわゆる兼業にしても、もう世の中には、稲作をそのままにして片手間で何かやろうというようなことでは間にあわないということです。そうなると機械化のことでも仕事の段どりのことでも一人や一戸の力では思うように稲作労力を減らすことはできません。そんなことで労力を生み出すための共同がまっ先に考えられもし、必要にもなります。

そこで労力の見透しがついたとなれば養鶏、養豚あるいはそ菜などをはじめます。その場合に生産のためにも、できたものを売ったり買ったりするためにも一人や二人の品物ではお客さんをとらえることができませんから、力や心の協同のほかにわれも君もやるという協同といったいわゆる産地化への努力というようなことも必要になります。

風邪は万病のもと
インフルエンザの予防

毎年寒い風が吹く頃になると、私たちは大抵一度は感冒に罹ります。これは空気の通りみちである鼻腔や咽頭、気管などが冷たい空気に侵されるからです。

寒気で鼻や。のどが弱くなっているところへ「ばいきん」が付くと、どんどん繁殖して、気管を強く侵し咳や痰が出たり、発熱し頭が痛くなったりします。これが普通に感冒といわれるものですがインフルエンザビールストという病原体です。病状も大へん重く肺炎を起して死亡する危険性の強い病気です。

また、この病気に罹った人が交通機関を利用すれば短期間のうちに国内に、全世界に大流行を起す恐ろしい伝染病で、流行性感冒ともいわれています。最近では、31～32年にかけて中国奥地で発生し、またたくまに全世界に拡がり「アジアかぜ」といって恐れられた伝染病です。

この病気は一度発生すると、またたくうちに拡がる伝染力の最も強い伝染病ですから、流行の時期に入いる前に予防注射をしてインフルエンザに感染しても病気にならぬようにしておくことが一番です。とくに抵抗力の弱い乳幼児や60才以上の高令の人はぜひ予防注射をしておく必要があります。また、流行期に人混みの中に出入りするときけ、必ずうがいをすることが大切です。

なお平素は十分睡眠をとり、栄養消化のよい食物をとり、常に丈夫な体をつくるように心掛けておればインフルエンザが流行しても罹らずにすむか、罹っても軽くすますことができます。

☆ゆどうふアレコレ☆

釣はフナにはじまり、フナにおさまるというタトエがありますが、ナベモノもゆどうふにはじまりゆどうふにおさまるようです。

第一、安くてカンタンです。そして味は、淡白であきることがなく、酒によし老人、子供によし、です。

ナベにだしコブを敷くようになったのは、関西からの影響ですが、いまだにそれをきらう江戸ッ子もいます。

ゆどうふに、一塩もののタラの切良（一口くらい）を入れるのは、江戸の名残りですが、タラチリと称して、タラのほかに春菊、生しいたけ、ゆばのたぐいを入れ、モミヂおろし（大根おろしに唐がらし）、みじん切りのワケギなどをあしらったポンズ（ダイダイの汁、ユズでない）と醬油でやるとなると、もはやゆどうふとはいえなくなりますことに、ヒゲダラを使うとよいのですが、お値段が張ります。

ゆどうふのツケ汁は、土佐醬油（醬油の中にカツブシを入れる）を湯呑に入れて、ナベの中央でガタガタいわせるのが普通ですが、桑名の名産、時雨ハマグリの煮汁でやりますと案外イケマス。

ハマグリは、ゆどうふの味つけとして昔から愛されて、江戸ッ子は、湯の中に大粒のムキミを二、三おとしたものです。

大根おろしを山のごとく作り、それでとうふを煮ます。大根おろしのゆどうふとなります。たべ方は、土佐醬油よしポンズ醬油よしです。白雪鍋、雪見鍋とか名づけていますが、所詮は枯淡な味わいで、乙でゲスという人に好まれます。

（週間文春12月26日号より）

000000
ご芳志に感謝
000000

・ビクター・テレビ　一台
入善町連合婦人会
〃　医師会
〃　議会議員一同
〃社会福祉協議会
〃　役場幹部一同

入善町母子寮へ
・五千円　田中喜一・入膳
・二千円　舟川豊郎　〃
・一千円　長谷川阿里（小摺戸）
町更生資金に

議会だより

第31回町議会定例会
＜12月20～24日＞

第一日（20日午后1時）

＜報告＞　専決処分の件

＜議案＞

◇町道橋梁改良工事施行件

◇同上田上飯野線新設工事

◇国民健康保険条例一部改正

◇課設置条例設定

◇職員の休日および休暇に関する条例設定の件

◇町営住宅管理条例設定件

＜選挙＞　黒東合口用水組合議会議員の補欠選挙の件（当選　島田久之・板屋）

＜報告＞　寄附採納の件

・五千円　麻地ハル・今江
・二千円　富山常吉・〃
・三千円　富山久作・〃
・一万円　野中青年団
・五万円　大面要藏・岩手（野中小学校備品購入費）
・七万五千円　大面斐藏（町消防団備品購入費）
・図書机外　価格10万円　阿瀬林作・東京都
・書架1手洗1（1万円）　昭和35年度卒業生一同
・講堂暗幕収納箱一　価格三五千円　新屋農協（新屋小学校備品）
・三万円　町酪農農協（産業振興種畜導入費）
・重油バーナ6基12万円　飯野小学校校下一同（飯野小学校給食室施設）
・一二万円　古黒部部落
・一一万円　舟見分団
・一一万円　野中校下一同（可搬式動力ポンプ購入費）
・一七五千円　小摺戸小学校PTA（ステージ改装費）

＜請願＞柳原児童遊園地設置に関する請願　柳原部落

＜陳情＞職安日雇労仂者の待遇改善　町自由労仂組合

・国道8号線の一部改良工事実施方陳情　邑町区長外

・町営火葬場及び霊きゅう車設置請願　町連合婦人会

第二日（24日午前10時）

◇昭和34年度決算認定の件

＜議案＞◇町議会の議員等に対する報酬及び費用弁償の支給条例一部改正

◇町議会議員の期末手当に関する条例一部改正の件

◇町教育委員会委員の報酬及び費用弁償条例一部改正

◇町長等の給料等の支給に関する条例一部改正の件

◇教育長の給与等に関する条例一部改正の件

◇町吏員の給与に関する条例一部改正の件

◇町単純労務吏員の給与に関する条例設定の件

◇町財政再建計画一部変更

◇35年度第5回追加更正

◇35年度国保2回追加予算

◇同診療施設勘定追加予算

＜陳情＞　36年度教育に関する陳情（県・町PTA）

◇農事メモ◇

◇米の包装材料◇

35年度の生産は、土地条件の整備や農業技術の改善等が好天に恵まれて戦後最高の収獲量となり、売渡実績も昨年度の105％にあたる211,000俵余が出荷されました。このため包装材料が不足し、農協ではその手当に苦心されたのです。今年は、出荷時期にあわてないよう今から十分に手当をしておきたいものです。

そこで、この材料ですが今までは俵が殆んどでありましたが、最近はカマスに変り現在でも出荷の割合はカマス51.7％と反対に多くなっています。

これは、米も商品である以上消費者に喜ばれる米を作り包装も利用度の大きい市場性のあるカマスが、消費地から強く要望されています。今年は消費者に喜ばれるおいしい米を作り包装も全面的にカマスに切り換えてください。

公営住宅法の改正……（ようてん）

改正の要点

公営住宅法の改正により町住宅管理条例が、12月定例議会で改正されました。

収入の決定　町長は、毎年四月末日までに入居者の収入額及び収入基準超過の有無を決定し、入居者に通知します。ただし、その月末において町住に入居の期間が引続き三年に満たない入居者はこの限りではありません

2　町住の入居者は、毎年三月末日までに、町長の定めるところにより収入について報告します。

収入基準

第1種町営住宅　三二千円
第2種町営住宅　一万千円

明渡努力義務　収入基準超過があると決定された入居者は　その町営住宅を明け渡すように努めます。この場合は、町長は必要があると認めるときは、適当な住宅のあっせんをするなどその明渡を容易にするようにいたします。

割増賃料　収入基準超過があると決定された者は、町長の定めるところにより決定の翌日から収入基準超過がなくなった旨を決定の前日または明渡しの日まで割増賃料を支払います。

＜第1種入居者の収入が三二千円～四万円まで〇・二
四万円をこえる場合〇・四

△第2種▽
一六千円～三二千円〇・三
三二千円～四万円　〇・五
四万円こえる場合は〇・八

住宅監理員及び管理人

1　住宅監理員は町長が吏員のうちから任命します。

2　住宅監理員は町住の管理事務を司り町住及びその環境を良好な状況に維持するよう入居者に必要な指導を与えます。

3　町長は、住宅監理員の職務補助のため、住宅監理人を置くことができます。

4　住宅管理人は、住宅管理員の指揮を受け、修繕すべき箇所の報告など入居者との連絡事務を行います。

収入超過者に対する措置は、原則として改正法施行後三年を経過した日（昭和37年6月1日から実施）

改正の要点

と、博の追放

毎どしのことですが正月から二月ごろにかけて、と博が多く行なわれます。

これは、雪にとざされるという生活環境にあることと、まだ古い習慣からぬけ切れないことが大きな原因であると考えられます。

昨年の県内のと博犯罪件数は、二六件で、六七名が検挙され場銭は百万円以上に達しております。これは大都市あたりの検挙につぐ全国八位という面目のない統計を示しております。

と博犯罪の社会に与える害悪や、家庭のいざこざをおこしている事例については、改めて述べるまでもありませんが、一面、と博犯罪は、こんにちの社会問題である青少年不良化の原因も、実はこんなところから芽ばえることを深く反省しなければならないと思います。

と博犯罪は、全く百害あって一利なく、と博こそ明るい社会、楽しいわが家の幸福をぶちこわすガンのような存在であります。

今年こそ総力をあげて、このいまいましいと博犯罪の追放に立ちあがろうではありませんか。

（入膳）

公務傷病恩給の請求権
3月31日で時効になります

旧軍人または準軍人で、在職中公務により受傷または罹病し、その障害の程度が恩給法に規定する程度に該当する方には傷病恩給が支給されております。

この該当者で、まだ求されていない方は、昭和36年3月31日限りで失権になりますから、一日も早く請求の手続きをしてください。なお請求書は役場民生課へ

告知板

総義歯に証明は不要です

國保

いままで、皆さんが総入歯を入れられたときは、証明書を発行しておりましたが昨年の12月26日で、その規程が廃止になりました。

それで、今後は役場の証明が必要でありませんからお知らせします。

人事の異動

総務課長代理・総務係長　坂東　賢（同庶務係長）
総務課戸籍係長　池原　助造（税務課）
税務課長代理・管理係長　森　栄（同税務係長）
税務課賦課係長　大野　八郎（税務課）
同　徴収係長　塚田　正藏（同）
民生課国民年金係長　高森　正一（民生課）
同　国民健康保険係長　上田　昇（収入役室）
建設課長代理・庶務係長　本多　忠義（国保係長）
産業課長代理・経済係長　森下　政雄（商工水産係長）
収入役室　上田　修（税務）
税務課　後藤　正義（総務）
同　藤田　啓也（民生）
同　福沢　浩（産業）
同　高沢　源作（民生）
民生課　若島　幸雄（税務）
同　吉田　巌（〃）
産業課　南地　清（建設）
農業委員会事務局事務係長　金森　勇作（農地主事）
（一月一日付）

青少年による犯罪等の防止については、中央地方を通じて、この防止対策にあらゆる手段が講ぜられている反面、一向に減少せず増加してゆく。

明るい茶の間づくり

刃物を持たない運動

……………年末年始の青少年をまもる運動…………

このたび「刃物をもたない運動」に引続き「年末年始の青少年を守る運動」が県青少年問題協議会が中心になって一般県民関係機関及び団体に呼びかけ、協力して青少年に有害な環境を浄化しその健全な育成を図るべく一大運動が開中であります。その重点事項は、

1　青少年に有害な環境の浄化について、県民の積極的な協力を得るための広報活動の実施

2　青少年に悪るい影響を与へるおそれのある場所または、その周辺の街頭補導の強化ならびに関係業者への自しゅく要望

3　「刃物を持たない運動」の継続推進

4　未成年者の禁酒、禁煙の徹底

5　「明るい茶の間づくり」の推進

6　青少年に「生活記録」運動の推進

7　「成人の日」を中心とする地域活動の推進

以上七項目を掲げて実践活動を推進しております。

本町としましても、この運動に呼応し、町の関係機関及び団体が相協力し、本運動を、おし進むべきは勿論でありますが、特に主要目標として、「明るい茶の間ずくり」と「刃物を持たない運動」をつづけて推進することにいたしました。

家庭において、親と子、嫁と姑、兄弟妹が相集い楽しい「だんらん」の場をつくる、「明るい茶の間」で反省と感謝の一日を語るそこに自から明るい家庭づくりが生れ、家庭環境の浄化と、ひいては社会環境浄化への第一歩でもあると考へられます。

先づ身近かなものからつくり上げてゆくうるおいのある家庭づくりも、決しておそきに失しない大切なことでないでしようか。

町民各位には、本運動の趣旨であります地域ぐるみの「明るい茶の間」づくりと「刃物を持たない運動」をつづけて推進することにご協力くださいますようお願いします。

……とそ……（屠蘇）

とそに用いる酒は普通ミリンですが、土地の慣習によって異った酩酒をまぜます。とその「屠」の字は元来「屠」で、「屠」は殺すほうるなどを意味し、祝い事に用いるのはおもしろくないというわけで一を加え「屠」としたといわれます

唐の時代、ある仙人が草庵をかまえて隠せいしていました。毎年大みそかに一袋の薬を自分の故郷に送って井戸につけさせ、元旦に至って井戸からとり出し、酒だるに入れて用いていました。里の人がこれをまねて用いるようになり、名も「屠蘇庵」にちなんで「屠蘇酒」といったのがはじまりといわれます。ある本に「一人これを飲めば一家病なし、一家飲めば一郷病なし」と書いています。

とその飲み方は、まずいちばん小さい子どもから飲みはじめて、しだいに長老にまわすのが常法。これは子どもの行末の長からんことを祝ったわけです。今日では、これと逆に、主人から飲みはじめます。年賀の客にすすめるのはもちろんですが、さかなには、かずのこ、ひらきまめ、ひらきごぼうを盛ったものが正式だそうです。

20才のエネルギーの使い方

1月15日は「成人の日」です

昭和二十三年に国民の祝日に関する法律によって、ほかの祝日とともに定められたもので「おとなになったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝う」のがその趣旨です。

成人とはもちろんおとなのことで、ふつう二十才以上を指しておとなといいます。厳密に言えば人間の骨の発育が完了するのは、二十五才であり、筋肉持久力は三十五才ころまで証明され、精神機能の方も二十才以上なお発育するといわれています。大体男子は二十才、女子は十七、八才で一人前になります。

しかし、複雑な現代社会では、二十才の青年に与えられる生活は窮屈です。経済的独立のできる青年は少なく、職業も望み通りあたえられないのです。結局あり余る体力や精神力が窮屈におし込められて、より大きな力となって、はねかえる潜在エネルギーにかわります。この潜在エネルギーがはげしく内攻する人はまだよい方で、外攻性の仕方を誤ると「アプレ犯罪」などということになるのです。

また、女子は二十才までの五年間、男子は二十才以後の五年間に結核発病や死亡が多いといわれています。今日の二十才の青年に気をつけてほしいことは、ノイローゼと結核であります。

盛んな体力にまかせて、ガムシャラな体育をやりすぎると、スポーツマンにかえって結核が多いという逆現象さえ起ります。

ありあまる精神力を読書とか音楽といった教養的なものや体育などの世界に向けるべきでしょう。

ただ受け身に見せられ、聞かされるだけの映画、ラジオ、テレビ、スポーツ見物ばかりは盛んな精神力を満足させられません。

自らの努力で何か一つの事を完成する―三〇巻の古典を読破するとか、語学や技術的なものに精魂を打ちこむ―そう言った能動的なエネルギー発散を計画することが二十才の精神衛生にとくに必要かと思われます

軽車輌の道路交通法

自轉車に荷物をつむときの心得帳

軽車輌とは自転車、馬車荷車、リヤカー類（そり、牛、馬を除く）をいいます

夜間の照明などの器具

- ５～15米を照射できる白色または淡黄色の前照灯
- 赤色で50米後方から確認できる尾灯、または三角以外の形で25粍以上の円を包める赤色の反射器
- 巾０．５米以上の軽車輌にあつては反射器は2個

乗車人員

- 自転車には運転者以外の者を乗車させない。

ただし、幼児の補助席を備え６才未満まで16才以上の者が運転する場合、または交通ひんぱんでない道路において乗車に適する装置を備える場合はよい。

積載重量

- 自転車　………　30kg
- 4輪牛馬車　…　2.000kg
- 2輪牛馬車　…　1.500kg
- 大　車　…………750kg
- その他の軽車輌　450g

積載容量

自転車では、積載した貨物の巾は0.9米をこえない。

＜長さ＞自転車は荷台の後0.3米まで。自転車以外の軽車輌は6.0米加える。

＜巾＞　荷台の巾に左右0.3米を加えたもの

＜高さ＞　２米（牛馬車は3米）からその積載する場所の高さを減じたもの

運転車の守るべきこと

1　他の交通の妨害とならないことを確認した後でなければドアを開閉しない。

2　注意義務を妨げる方法で雑談して自動車また原動機付自転車を運転しない。

3　ゲタその他の運転操作に支障あるものをはいて自動車原動付自転車を運転しない

4　二人乗りできる場合、二輪の自動車、原付二種また自転車にまたがらずに乗車させて運転しない。

5　積雪または凍結の道路ではタイヤチエーンをつけて自動車を運転する

6　制動機、警音器の不完全な自動車は運転しない

7　交通ひんぱんな道路は横に並んで通行しない

8　運転者の視野またはハンドルその他の操作を妨げるような方法でカサをさしまたは物をかつぎ、手に持つなどして自転車を運転しない。

カサをさして自転車に乗らない

推せん映画

☆裸の島☆

耕して天に至る——小さな孤島の段々畑に、いのちをすりへらす農民の夫婦。

その毎日の苦斗を一時間半の黒白シネスコ画面にうたいあげた新藤兼人の異色映画詩。全編ひとことのセリフもない劇映画という表現の点からも、製作法のうえからも、注目に価する昨年度日本映画の問題作である。舞台は瀬戸内海にうかぶ周囲五百米の孤島。開巻ヘリコプターから見下されたこの島はてっぺんまで美しい縞模様に開拓されて〃絵のように美しい〃しかし、一歩地上に降りたって、生活を直視すれば、ここの毎日は、想像をこえた苦しみの連続である。映画は、この島に住みつく唯一軒の農家、殿山泰司と乙羽信子の夫婦と二人の子供に、じっと焦点をあわせる……

息苦しい一編にはちがいないが、小さな世界で日本人の苦斗を拡大してみせた点、社会映画としても、重要な示唆を含んだ映画詩といいたい。

「裸の島」力演する乙羽信子

青年学級

体験文募集

目的　勤労青少年の学習意欲の高揚をはかり、一般社会の青年学級に対する関心と理解を深める

主催　県教育委員会、県青年学級振興協議会

内容　（例）青年学級で学んだことだが職場、家庭でこのように生かされている

- 学歴年令の異なる友とともにこのように楽しい学習を続けている
- 私たちのグループ活動はこのようにしている
- 青年学級の運営についてこんな成功（失敗）をした

字数　本文三、二〇〇字以内とし必ず原稿用紙を使用すること

編集後記

▼昨年の二八日から降りだした今年の降雪には誰れしもアキレタことと思う。昔から〃災害は忘れたころにやって来る〃といわれているが、マザマザと思い知らされた▼雪といえば、多山を思い出すが、今シーズン富大山岳部が剣にナレ過ぎて遭難、開部以来と聞く。山男といわれたベテランでも新雪期は危険視され、冬山は三月、夏山は七月と聞かされている。近頃は、年を通じて遭難事故があり、世人はいろいろと評して陶酔的な自殺行為であるとキメツケる人もある▼登山は山登りに違いないが、美の探究、真理の追求であり、山の自然のフトコロに抱かれた者でないとわからないと思う▼山にしろ人生や仕事にしても、自信が過ぎると、自分の考えにあてはまらぬことは間違っているように思われるものである。初老の年を迎え、自立の年代にたち至りながら未だに模索の己れを知る心すべきことである▼本号からかわった〃広報にゅうぜん〃の題字は奥田寒石氏の作品です。（臾田）

カメラ放談

おめでたい

ながれ・たかし

正月になると昨日まで机を並べて仕事をしていた人とでも〃あけましておめでとう〃と挨拶するのが日本人の習慣になっている。〃おめでたい〃という言葉は日本人には一番感じのよいニューアンスをもつ言葉だが、さてこれが〃あの人は少しおめでたい〃となるととんでもないことになる。

ところでこの頃日本語の荒れ方はすさまじいものがある。〃ボクは泣いちっち〃あのコはいかす〃などというのはまだいいとして〃シャリ（飯）〃〃スケ（女）〃などという隠語が堂々と家庭内でも通用するに至っては同断だ。

戦後文部省の音頭で国語の平易化が進められてきたしかしいい加減な当字や読みかえ、てにをはの使い方にも弱ったものがある。

昔私がまだ海軍にいたころ舟へんに水と書いて水雷艇、舟へんに力をつけてカッター。舟へんにラならランチだと教えられてビックリしたことがある。

また五年ほど前司法記者をしていたころ強姦とけんかを同時に起訴された事件に当ったことがある。そのころ〃ゴウカン〃などという言葉はいけないというのでなにかよい読みかえ方がないかといろいろ考えた結果「婦女暴行、暴行で起訴」として出稿したところ整理者が〃前の方が婦女暴行なら、後の方は野郎暴行に〃でもしないとヘンじゃないかというので大笑いしたこともあった。

それはともかく日本人の言語にたいする苦労が文化科学などの発達を妨たげていることは確かだが、半面日本語には文字そのものにも意味やニューアンスがそれぞれあるものだからこれも失ないたくない。

〃空は青い〃を〃空わ青い〃としてみたり、語尾の変化しない部分までカナを送って〃当り〃を〃当たり〃と変えてみたり朝令暮改を十五年間もつずけられたのでは文部省や国語審議会の苦心もわかるが、私たちはやり切れない。

いゝ加減なところで統一してくれないとたださえ〃一億総白痴化〃といわれている日本人が自分の国語までわからなくなり、ほんとうにおめでたい民族になりかねない。

新着図書案内

廓然無聖	翁久允
串田孫一随想集全	筑摩書房
対山荘雑記	米沢滋
フルシチョフ遠征従軍記	大宅壮一
じょずな説得技術	平井昌夫
愛情はふる星のごとく	尾崎秀実
性格	宮城音弥
働く女性の心理	畔上久雄
孤独からの解放	南博
日本文化史講座全	肥後和男
	若槻礼次郎
皇城	中島卯三郎
近代日本国民史	徳富猪一郎
偉人の研究事典	中村新太郎
実録大平洋戦争	伊藤正徳
東条英機と大平洋戦争	佐藤賢了
王家の谷	酒井伝六
桂太郎	川原次吉郎
加藤高明	近藤操
上信の山と高原	東京山旅倶楽部
主婦のための法律	下光軍二
部下の扱い方	三野逢義
今だから話そう	河野一郎
しあわせと影	大久保忠利
人間をつくる	古川原
魅力の教室	丸尾長顕
婦人学級これからの経営	重松敬一
考える子どもたち	横島武郎
茶の間の数学	笹部貞市郎
現代の娯楽数学	金沢養
日本昆虫記全六巻	講談社
原子力	早川淳一
たのしい育児としつけ	平井信義
新薬百話	田村豊幸
職場のモラール	岸戸護
根菜栽培の技術と経営	
軟化芽物の技術と経営	松原茂樹
農薬の性状と使い方	作物保護研究会
これからの稲作	朝倉鉱造
新しい商店儲かる商店	渥美俊一
小店繁昌の道	倉本長治